

本日の学び テーマ：「もっと偉大なことを見るようになる」 テキスト：ヨハネ1章43節-51節

【理解の手がかりとして】

フィリポとナタナエル、彼らはイエス様によって召し出された二人の弟子である。このナタナエルとは、バルトロマイ（「タルマイの子」の意味）という呼び名もある。では、彼らはイエス様とどんな出会いをしたのか。

フィリポとナタナエルの関係は、大変親しい間柄であった。フィリポはイエス様から「わたしに従いなさい」と語りかけられた。このフィリポに関する聖書の記述はそれほど多くない。しかしイエス様によって「わたしに従いなさい」と声をかけられた人として、その名はキリストの歴史に刻み込まれてきた。

良いものを得た人が次に取るべき態度は二つあると思う。一つは誰にも言わず独り占めすること。もう一つは、皆に分かち合うこと、である。「わたしに従いなさい」と言われたフィリポ。さて、フィリポはその「良いもの」を次にどうしたか？・・・彼は「分かち合い」を選んだ。親友ナタナエルを自分が選び取った道に誘おうとした。彼は言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ」と。

フィリポは自分がこれから歩むべき道に、その友と一緒に歩むことを期待してそう言った。「わたしたちは見つけたぞ！」と。どんなに興奮していたことだろう。「お互いに求めてやまなかった、あの真実なる者に出会ったのだ」。フィリポの心の内を訳せば、そういうことだろう。

一方、ナタナエルとはどんな人物だったのか？「類は友を呼ぶ」と言うように、彼もまたフィリポと同様、純粋にイスラエルの救いを求めて来た人だった。その求めにおいて、彼らは共感し、友情を深めてきたのだろう。ナタナエルは、親友フィリポの心の内にある思いを感じ取りながら、しかしまだ見も知らぬ〈ナザレのイエス〉たる人物に対し、いきなり心を開けるはずもなく、フィリポに向かってこう言った。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と。

ナザレ——当時の人たちは、この町を俗化された町として見下していた。誰も「来るべきメシア（救い主）」がそんな町から生まれるとは想像もしなかったのである。「歴史を変革する者は、もっと崇高な、力ある者であるはずだ」・・・ナタナエルの心

情はそのようなものであっただろう。

このような懐疑心を持つ人を前に、私たちは度々説得に言葉を多く使う。なんとかして自分の感動を分かって欲しい、との思いと、なんとかして相手に理解してもらおうとの思いが、言葉を多くさせる。けれどもフィリポはこの時多くを語らなかった。彼はそれを言い表すには余りにも不十分な自分を知っていたのだろう。あるいは、間違った説明で、そのために友を失うことを恐れたのかもしれない。・・・フィリポがこの時、その友に告げる言葉はただ一つだけだった。「**来て、見なさい**」。

イエス様は、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い」と。するとナタナエルは、会う前からすでに自分のことを知っておられるイエス様に驚き、こう言った。

「どうしてわたしを知っておられるのですか」と。——フィリポはナタナエルに「わたしたちは出会った!」と言った。・・・しかし、本当のところは、すでにイエス様によって知られていたのである。

イエス様はナタナエルにこう言った。「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」——「いちじくの木の下にいるのを見た」とは、単に暑さを凌いでいる光景ではない。イスラエルの人々にとって「木の下」はとても重要で、それは祈りの場所、イスラエルの救いを心から求める祈りの場所であった。イエス様もよくオリーブの木の下で祈られたように。イエス様は、ナタナエルのその祈りの姿をご存じであり、それがゆえに彼のことを「まことのイスラエル人だ」とお呼びになったのである。それは言い換えれば「**真実の求道者**」と言い換えることができる。

ナタナエルは驚いた。それは見も知らぬ自分を、表面的にはなく、その存在の根底から知っておられたイエス様に驚いた。そしてそのイエス様こそが、自分が長年待ち望んでいたお方だということに気付いたのである。その時、ナタナエルの心が開けた。もはや「ナザレから何か良いものが出るだろうか」といったようなこの世の見方など関係ない。彼自身がイエス様にとらえられたのである。そしてこう告白した。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」と。これは「まことのイスラエル人」と呼ばれたナタナエルが、自分の「王」としてイエス様を受け入れた瞬間だった。そしてこの告白から、彼はイエス様の弟子となって、新しい人生を出発したのである。

さて、この話はここで終わりではなく、もう二つのイエス様の言葉が記されている。一つは「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる」であり、もう一つは「はっきり言って

おく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」である。これらの言葉は、とても重要であり、そしてイエス様に従う者が、心に深く刻んでおくべき内容である。「もっと偉大なこと」とは何か？そしてこれらの二つの言葉は何を意味しているのだろうか？

神学者 William Barklay の註解より。「ナタナエルよ。あなたの心を読み取るよりも、もっと大いなることが私にはできるのだ。私は、あなたのためにも、また、すべての人々のためにも、天に至る道、天に至る梯子（はしご）となることができるのだ」。——果たしてナタナエルはこの言葉の真意を理解できただろうか？・・・いやおそらく彼がこの言葉を真から理解したのは、イエス様が十字架に死なれそして復活された後だっただろう。

このイエス様とナタナエルとの出会いは、私たちに多くのことを教えてくれる。①信仰は、まず「行って、見ること」から始まる、ということ。②信仰は、イエス様の偉大な力に驚く、ということ。③信仰は、イエス様に従い行く中で、深められていく、ということ。イエス様は私たちを招いておられる。「私に従ってきなさい。そうすれば、私が神の子であることが分かるであろう」と。私たちは、従う中に、キリストの力を知る。まさに「来て、見なさい」である。

そしてナタナエルがイエス様と出会うには、フィリポという人物が欠かせなかったことを覚えておこう。それぞれにとってのフィリポは誰だったか？ また、それぞれにとってのナタナエルは誰だろうか？

『聖書教育』より

- 「私たちは聖書が告げているイエスさまと、どのような出会いを体験し、どのように信じてきたでしょう？」（大人クラス）